allcinema

緑色の髪の少年（1948）

THE BOY WITH GREEN HAIR

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
時間 82分
初公開日 1950/03/07
公開情報 セントラル

【解説】

デ・ニーロが“赤狩り”に正面から立ち向かう映画監督に扮した「真実の瞬間」で、ロージーらしき監督を演じるＭ・スコセッシが、本作を編集中、その完成をデ・ニーロに託し、赤狩りを逃れて英国に飛ぶ。が、事実は異なり、’４８年にこの感動的な作品で鮮やかな監督デビューを飾ったロージーは、その後’５３年までは何とかアメリカに踏み留まり、５本の作品（いずれも未公開のＢ級作品だが評価は高い）を残し、最後の「拳銃を売る男」で偽名での発表を強いられて渡英する。

警察に保護された丸坊主の少年が、精神科医のさし出すハンバーガーにやっとうち解けて回想を始める出だしのフラッシュバックの素晴らしさ！　ロンドンの戦災孤児で、親族をたらい回しにされた少年は、遠縁のアメリカの老人に引きとられ、ようやく明るさを取り戻し、学校にも元気に通っていた。が、ある日授業でベルリンの戦災孤児の話を聞いた少年は、自分の過去を思いめぐって恐怖に戦き、その髪は一夜にして緑色に変わってしまう。教室の廊下に貼られた孤児のポスターに見入るうち、その焼け跡へと意識を飛ばす際の処理は震えが来るほど鮮やかで、暗い眼差しで見つめる孤児の表情は切なすぎる。そして、戦争の惨禍を説いて回り始めた少年は、誰にも相手にされないまま、途方に暮れてさ迷っていたのだった……。

少年＝Ｄ・ストックウェルの純粋さに心うたれ、彼を力強く励ますＲ・ライアンの医師に心から共感する、最良の反戦映画。当時、ＲＫＯのオーナーであったハワード・ヒューズは公開を咎めたが、製作者のシャリーが退社を懸けて本作を救ったことも明記しておきたい。儚い暗がりのメルヘンだ。

【クレジット】

監督	ジョセフ・ロージー	Joseph Losey
製作	ドア・シャリー	Dore Schary
原作	ベッツィ・ビートン	
脚本	ベン・バーズマン	Ben Barzman
	アルフレッド・ルイス・レヴィット	Alfred Lewis Levitt
撮影	ジョージ・バーンズ	George Barnes
音楽	リー・ハーライン	Leigh Harline
出演	ディーン・ストックウェル	Dean Stockwell
	ロバート・ライアン	Robert Ryan
	パット・オブライエン	Pat O’Brien
	バーバラ・ヘイル	Barbara Hale
	ドウェイン・ヒックマン	Dwayne Hickman
	サミュエル・Ｓ・ハインズ	Samuel S. Hinds

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.